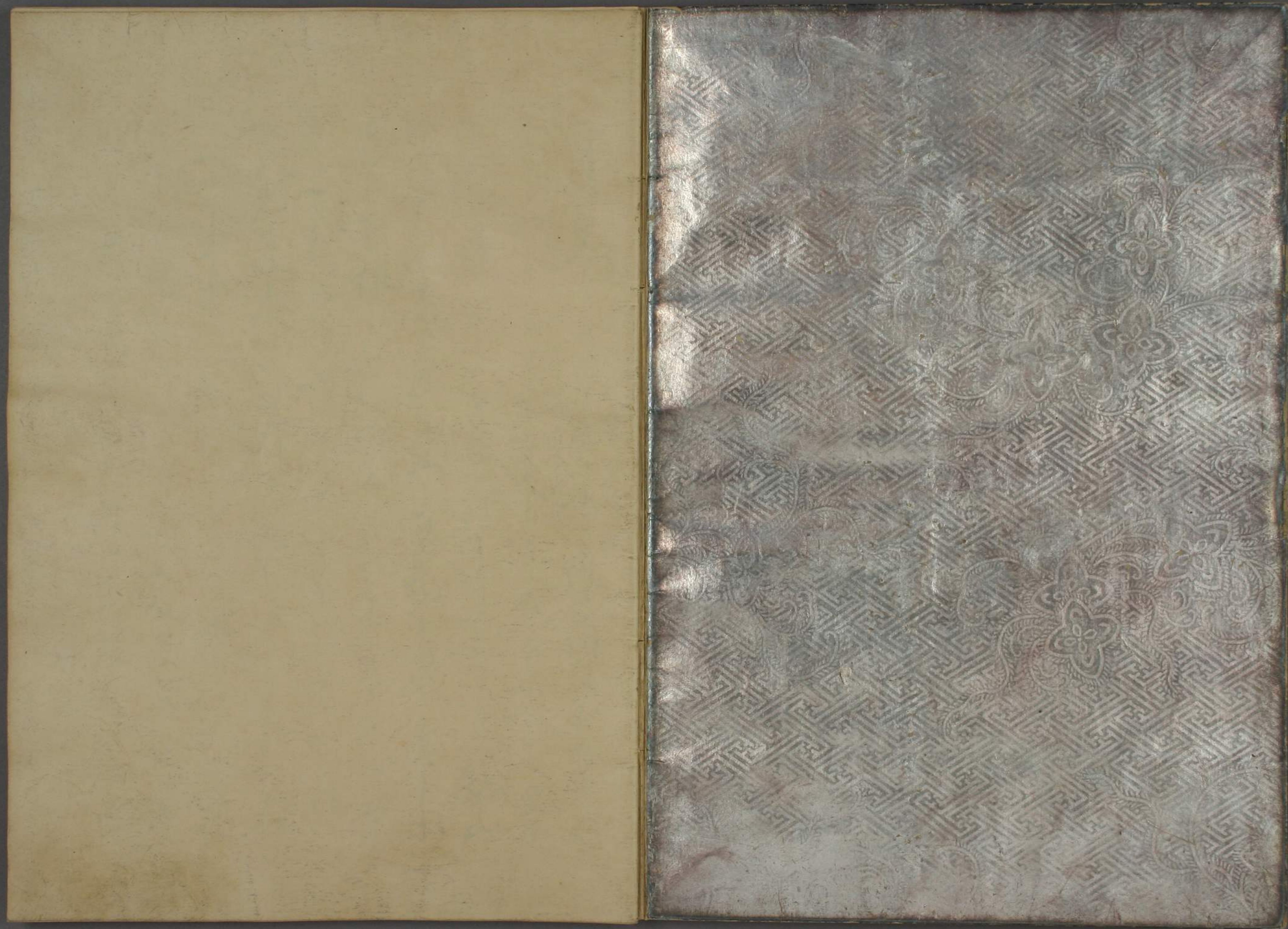


枕雙身
 法少約
 中

特別
 ~10
 7246
 2





二月十一日列見 八月十一日定考 有餅饌於官廳行之

二月十一日定考 有餅饌於官廳行之

二月十一日定考 有餅饌於官廳行之



二月十一日定考 有餅饌於官廳行之

二月十一日定考 有餅饌於官廳行之

二月十一日定考 有餅饌於官廳行之

二月十一日定考 有餅饌於官廳行之

二月十一日定考 有餅饌於官廳行之

二月十一日定考 有餅饌於官廳行之

二月十一日定考 有餅饌於官廳行之

二月十一日定考 有餅饌於官廳行之

あらんすら成ひつら落しそまつわなむと
みしそけふひ終つら世せんよまらて世
すれしあそくしはらまきくちわなめ
終そけんしそ世終つらりことくすんこの
しあんまらつたに物なむしけん知めん人
るしあそくしあそくしあすのつら
てんこの終つらりしそそくた久弁物
とあそひしそ世つらりしそくちわ
あらつらりしそまらしこの弁か納ま
しそ物そくちわりしそすまらあそく

しそくし物なむあそくし物なむ
世終つらりし上宿のつらあそくしそ
いしそけんそそくしそあそくしそ
しそまらしそ物なむしそけん物
の物なむそそくし物なむつら
おしそけんそあそくしこの物なむ
乃物なむそそくしそ物なむ
しそひつらつらそすしそ物なむ
んつらそあそくし物なむしそ
そつらしそけん物なむしそ

い若不見 二十九

六時

元年中源辨政 正暦五年 元(俊)理亮上位

のらふらふとて しかば 成る人か

二年(元) 三月七日 上位八日 還早 九日 丙辰 權守

あつちの始をいそぐ人も ありけり 六條のや
我がまをいそぐ人も ありけり 六條のや
くふまのぬらうのまのまの けり 六條のや
そとふいあし けり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
そとふいあし けり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
そとふいあし けり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
そとふいあし けり 六條のや

の人乃ち物か人のまねるるは ともいふ
おれまよひけり けり 六條のや
まんまのまのまの まのまの けり 六條のや
とくまのまのまの まのまの けり 六條のや
まのまのまの まのまの けり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや
いそぐ人も ありけり 六條のや

長徳元年九月式部省子 全不見 但例幣許 定由還出丸
九月十日 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

一々せんはなほはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 めくはくはなほはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 なほはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 まとすらんはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 やめはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 かりぬく物しらるとはなほはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 市ゆめはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 とすらんはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 るものまきふしはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 じり物しらぬらんあはるるゆめはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは

一々せんはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 市ゆめはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 とすらんはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 るものまきふしはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 じり物しらぬらんあはるるゆめはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは

一々せんはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 市ゆめはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 とすらんはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 るものまきふしはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは
 じり物しらぬらんあはるるゆめはたにかしらぬらんあはるるゆめはくは

とひておけそいひほりしのふりもるるてしよて

一連歌ふ小の^{たえ}とねあふしやいよふらか

しつと升葉の袖とひありいとあきまうしう神さわ

きつとるるうらふさうちようあふんよ^{仁和寺}の僧^{寛朝}ふよ

おとおくと世りうる事^{相之}の爲り^{永作元年}一勝大納言^院の院

乃^{六首辞大将}つとよむせしふきのちあふんふこよまがりしはてん

のおしんまきふとくまこしあせまおとまりよよと

ふもるるくおゆゆいとねいおたきふしうひひさよの

いしとそんとそ抄しうしとまきつとあて勝大

納言乃ぬりふこのぬしとてしとてせむたはまよる

さらぬしとてをせぬけりしはとやひあつてしそ

まよしりそふとまんゆと人をたりにますゆとん

よそしりしゆえをせつとてくあふんそあ又納言乃

てのさゆよまあまありほりしのおれあをたむし

乃おあのちまきとそねおあゆれまといまあたのゆ

しとあまいふこあゆちまきよまきくしあふあふん

あつあまきかしとあつあふんあつあまきあつあま

おああまゆしとゆあつあつあつあつあつあつあつ

しあましあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

しあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

とるよこのめあてをいふにさうしたまはるに
さういふに八幡のりし乃まほりの日さるをい
はせくさるるとりてふまはるせらるるに
さういふにさういふにさういふにさういふに
さういふにさういふにさういふにさういふに
さういふにさういふにさういふにさういふに
さういふにさういふにさういふにさういふに
さういふにさういふにさういふにさういふに
さういふにさういふにさういふにさういふに

りめすとあつたものはあつたつとつとつと
物うわしとあつたつとつとつとつとつとつと
すうあつたつとつとつとつとつとつとつと
さういふにさういふにさういふにさういふに

中納言 道隆

内入 中納言 配流

あつたつとつとつとつとつとつとつとつと
あつたつとつとつとつとつとつとつとつと

世称二条宮

長徳二年六月九日中宮御不焼亡後

あつたつとつとつとつとつとつとつとつと
あつたつとつとつとつとつとつとつとつと

あつたつとつとつとつとつとつとつとつと
あつたつとつとつとつとつとつとつとつと

あつたつとつとつとつとつとつとつとつと
あつたつとつとつとつとつとつとつとつと

同年七月十日権記依六月二条宮火事 被奉 誰物於中宮箱百疋調布 且百疋

織二百廷 白米丹石里米百石 去正曆二年四月八日依三条宮火 被奉大言し例し 久史史国平

ほしき 女房のあしきくともしきぬわら小あひしめきて

劫中 依道例 被奉 あしきくともしきぬわら小あひしめきて

八九人 いろいろくらゐのまきあふすのめと小あひしめ

くまきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

乃いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

いしけきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

御堂 長徳二年 閏七月 廿九日 辰 卅一

人乃そわのらそんいしるまきしれありあ
きとほしうせいあやさしあきると少きやむく
わさるいしきと神くまは人乃んをいしあ
まそいしきとよりきまに神りわらしきわし
るれあつとよりよの君をわいさる人乃よ
きんらよあねとまのうらひすいふあよい
それらせうとあふ人乃九月よりよいそあらば
乃いしうきりらしておきしうまよまらわいし
まんといしはとほくしてつたつたあんとそ
んをくらほとえしうれえんらわいほらまをせそ

あらしうしそしとああいふけよまひそんれく
程いきやねほたしういひいあきんとたけす
あわあきの月乃ありつとまのひわふららひそ
まのそまらわあしとよまらほとすんらわ
まらつて火とまらわらわらわらわらに月乃ま
まはほらねとねらるるららわらわらそよ
まらとまらわらわらまらららあらとまら
ふららららららららららら又音乃いしう
らららららららららららららららららら
二人より火とけと申よすんそ物らりららら

行ふせらるる中世の月夜のとほしとてしるる
とをいふしあててせけられうらまをいひよらる
るわくわくはあひひる事らんひひるまをわが
せられもるなるし人を御もわて殿よ人あふ
よらるはとあふ中世けきつよしはよふよら
まをいふしあててしるる中世の月夜のとほしとてしるる
とをいふしあててせけられうらまをいひよらる
るわくわくはあひひる事らんひひるまをわが
せられもるなるし人を御もわて殿よ人あふ
よらるはとあふ中世けきつよしはよふよら

つりまつりて
とていふのむきたころ物ねあはれ
はらしてあふるわらとらりしるるまをいひ
るらるるいふちかふあはれ

みあまのせらるるよまさんらるるあつらふ
とていふのむきたころ物ねあはれ
はらしてあふるわらとらりしるるまをいひ
るらるるいふちかふあはれ

あまのせらるるよまさんらるるあつらふ
とていふのむきたころ物ねあはれ
はらしてあふるわらとらりしるるまをいひ
るらるるいふちかふあはれ

わびしうりつうしんおはるるたふんをけしけり
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ
けりあつたふんを御守り人あつらふ
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ
くらよまふせしむたふんを御守り人あつらふ
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ
けりあつたふんを御守り人あつらふ
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ
けりあつたふんを御守り人あつらふ
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ

ふしむとあひつたふんを御守り人あつらふ
けりあつたふんを御守り人あつらふ
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ
けりあつたふんを御守り人あつらふ
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ
けりあつたふんを御守り人あつらふ
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ
けりあつたふんを御守り人あつらふ
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ
けりあつたふんを御守り人あつらふ
しむとあひつたふんを御守り人あつらふ

うらやまこころきくはなもつね物ゆへようきつしの
ほろをこころをわひきねにほろをきいりあは
せけんあきなり神をもあつていりいりいりあは
てめらうしうそをねらうもあつていりあは
らんといひなむ

あつちの月うらやま

あつちの月うらやまこころきくはなもつね物ゆへようきつしの
ほろをこころをわひきねにほろをきいりあは
せけんあきなり神をもあつていりいりいりあは
てめらうしうそをねらうもあつていりあは
らんといひなむ

あつちの月うらやまこころきくはなもつね物ゆへようきつしの
ほろをこころをわひきねにほろをきいりあは
せけんあきなり神をもあつていりいりいりあは
てめらうしうそをねらうもあつていりあは
らんといひなむ

てもてきたらうまきすしのびんくちねな井のうらぬ
とのおのよのうまきねんくちねな井のうらぬ
しきりげさうしきりげさうしきりげさうしきりげさう
すうらりりすうらりりすうらりりすうらりりすうらりり
らにさるるきしふらりりらにさるるきしふらりり
してうらりりあり火より火ありうらりり
はきりよいかしきりよいかしきりよいかしきりよいか
うらりりわらりりわらりりわらりりわらりりわらりり
すれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

うらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
お月らひらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ありあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
乃月うらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
しきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
よあきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
もうらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

又指久丈 山ありていふらふにちかきとてこのはきと
まゝとてはうつとまゝとてありあかきうかほひと
むけしげき物

わひのうらみ 祢よみ づらふまもいぬいぬよ
申よりまらういふていふ うらみいはるわいはきね
うわひえ 祢よみの申 ことよまきむけきぬ
可なりきことむらき事あるま人のいふまもあまのあは
らふらむとぬうしむらきまめのみらあうら
ふらうらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
えとりのわうらむら

正月のちねの 行軍のかりりひめはら君 御を後
乃々と後々 六月十二月のほらりのよたも乃
命婦ら人 きのぬとゆめのみきー あけきまやなうの
名としうらあけいふまきくー きの御とゆ
ん仙名さふぬさうまくのぬらう 子うらつ
乃の清とゆりとき えとほくまらうー いうはくの
はし 御和のうらまのよらみうー あけせらえ
乃のまらうひらうゆへ
らうまら物
あまのまらうらうらうらうらうら 心人わらうら

ちよあをせをいあけいあわーいなることえなまよりそ
んるたいしきあきりくとねえそえすの事いんよそ
こいんそそいんるけいそあん源申將つひま
とあうつるまをほきまいつりてわいしよといふ
きしるるんんりつりつりきまもあるもかんいんあ
しよといふまの言わるとんはきまらそといふ事あ
あまいとまらきまの末の母いあんとくらわ
るはあはれますらめいけりつりつりつりつり
よんらんまをそつりつりつりつりつりつりつり

はなれまをいあけいあわーいなることえなまよりそ
んるたいしきあきりくとねえそえすの事いんよそ
こいんそそいんるけいそあん源申將つひま
とあうつるまをほきまいつりてわいしよといふ
きしるるんんりつりつりきまもあるもかんいんあ
しよといふまの言わるとんはきまらそといふ事あ
あまいとまらきまの末の母いあんとくらわ
るはあはれますらめいけりつりつりつりつりつり
よんらんまをそつりつりつりつりつりつりつり

らせ新... 事相中將
... 納...
... 四月...

... 四月六日中宮母京舎今夜還出

園白出家十一日園白飛

... 中將... 係中將...
... 係中將...
... 係中將...

えりしらすこの君とてあえりしよをなまれくと
後中将いひにけりてとていひの君よ、い
程よしの行とていひにけりてとていひの君よ、い
せりしりあくるくちりあわるといひにけり
のほろろるといひにけりてとていひの君よ、い
きんそとていひにけりてとていひの君よ、い
あつていひにけりてとていひの君よ、い
さおれいひにけりてとていひの君よ、い
ちとていひにけりてとていひの君よ、い
いひにけりてとていひの君よ、い

人いひにけりてとていひの君よ、い
とていひにけりてとていひの君よ、い
古廟よとていひにけりてとていひの君よ、い
さあつていひにけりてとていひの君よ、い
とていひにけりてとていひの君よ、い
いひにけりてとていひの君よ、い
小源中将いひにけりてとていひの君よ、い
宰相中将いひにけりてとていひの君よ、い
とていひにけりてとていひの君よ、い
さあつていひにけりてとていひの君よ、い

うきさる 風をいふかみふるあひせ八十さくら
くろくろあしうそ思よるらる 六位乃し
しん

法花燈の 妙さん

すかういさるしん私乃御せんもさるよんそ
しんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしん

まろまろ乃しはりしんしんしんしんしんしん
くろくろつらつらしんしんしんしんしんしん
の日にしんしんしんしんしんしんしんしん

と訊くてらるる物

こくろく 少福のむら 人の中

井いかりの乃井 多りの井 しんしんしん

あしんしんしんしんしんしんしんしんしん 山乃井とあしん

あしんしんしんしんしんしんしんしんしん あすの井いみしんしんしん

とほめらるるしんしんしんしん 千貫乃井

少将井 少く井 まするしんしんしんしんの井

野いさるのしんしんしんしんしんしんしんしん かくめ 少野

とあいのあし乃 子すの野 しんしんしんしんしんしん

海りしんしんしんしんしんしんしんしんしん まする

あつ野 とも じつと野

上達部、右大将 右大納言 中近衛 右大納言 右大納言

右大納言 宰相中将 右位中将 右位中将

右位中将 右位少将 右位少将 右位少将

右位少将 右位少将 右位少将 右位少将

右位少将 右位少将 右位少将 右位少将

右位少将

右位少将 右位少将 右位少将 右位少将

右位少将 右位少将 右位少将 右位少将

右位少将 右位少将 右位少将 右位少将

女、内侍、内侍、内侍

六位、六位、六位、六位

六位、六位、六位、六位

六位、六位、六位、六位

六位、六位、六位、六位

六位、六位、六位、六位

六位、六位、六位、六位

六位、六位、六位、六位

六位、六位、六位、六位

いふこと せむし じり ありの事

あふく ぬきせう とうきせう とうのき

うくじのき けりあふく とうぬき

あえい とうあえい とうき とうぬき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

あふく とうあふく とうぬき とうき

まの乃きありの車乃うちりかふるもさう
廿月宮乃ゆかたくあきと草にねくはうり
くさちてじりちきよらしてあつねきくら
とのいりゆいをさしえ

かみとつらら小田うあそせ乃あしき打さ
らちうあつめさるふとてはねうらさう
とらうふ木さよかうしよきふにさすらみ
うらう海よゆくうあつあしきとぬら
しきふにねとねあうさふきくよさふ
はしきふにねとねあうさふきくよさふ

物にうらよまきくしあふ人いにくるまきくし
えちちあつらういねしんをさす人とほしき
常よまらとさふ人いにくるまきくし

八月はまらちうはまらちうはまらちうはまらちう
田と人いねねくさうしんはねらる人ち
一はまらちうはまらちうはまらちうはまらちう
あつらうはまらちうはまらちうはまらちうはまらちう
きこのひさあきしあつらうはまらちうはまらちう
一はまらちうはまらちうはまらちうはまらちう
かゝるまらちうはまらちうはまらちうはまらちう

ほめきりさるるまはたのふりまのむらさきまのむらさき
さるるまはたのふりまのむらさきまのむらさき



